

留学報告書

東京大学大学院 工学系研究科 機械工学専攻 修士1年

牧 拓摩

留学先： デルフト工科大学（オランダ）
留学期間： 2017年8月16日～2018年7月27日

1. はじめに

1.1. 留学の概要

オランダのデルフト工科大学へ1年間の交換留学を行いました。

デルフト大学はオランダ内ではトップの大学で、建築分野では世界3位と名の知れた大学です。

制度としては東大の工学部とデルフト工科大学の3Me (Mechanical, Maritime and Materials Engineering の略)との間での交換留学を利用しました。

私は設計工学というものを専門で学んでいるのですが、東大内では機械工学科の傘下にあるため、留学制度としてはデルフト工科大学の機械工学専攻の所属でした。しかしながら、私の専門に最も近く且つ興味があったのはIDE (Industrial Design Engineering) 学部であったため、IDEにも講義や研究でたくさん出向きました。

1.2. 奨学金について

トビタテ留学 JAPAN という留学制度を使いました。それなりに選考がありますが、取っておいて間違いない奨学金制度だったと思います。

渡航中だからこそソフトウェア軽く様々な経験をするべきであり、金銭問題がそれを阻んでしまうのは本当にもったいないと思います。私は奨学金のおかげもあって思うままに旅行、サークル活動、食事、友人とのバーで

の飲み会など、積極的に物事に参加できました。

2. 留学の概要

2.1. 留学準備期

私は修士1年での留学だったため、卒論で忙しい学部4年の秋冬の時期に留学の手続きをしました。

デルフト工科大学に交換留学に行くのに TOEFL iBT が最低 90 点必要なのですが、当時の自分は卒論に重きをおいていたため、結局 TOEFL を一度も受けないうまま卒論の最終発表日まで過ごしてしまいました。

その結果、対策勉強すらしていないにも関わらず TOEFL のスコア提出期限まで1ヶ月を切っており、図らずも背水の陣になってしまいました。最終発表の翌日によっつけ本番で初めて受けたところ 88 点で、2 点足りずかなり焦ったのを覚えています。

日程的にあと1回しか受けられない状況だったのですが、次回までに2週間あったのでその期間で詰め込み、最終的には無事基準点を超えました。

自分は悪い例なので、これから留学を考える方には英語の試験を計画的に受けることをお勧めします。

その他の準備としては、特に何も行なっていません。先方の大学からの案内に従って現地の口座の作成等をした程度です。

私は生まれてから5歳までアメリカにいたため（ネイティブとは到底言えませんが）、留学中のコミュニケーションに不安は感じていなかったため通常通り研究活動をこなして出国までの日々を過ごしていました。英語の苦手な方は英語力増強などに取り組まれると良いかと思います。

2.2. 留学期（研究室や授業の様子）

研究室は日本のようなイメージとは異なり、たくさんの学生が別個のテーマを持って教授に付いていて、日本ほど学生同士の交流はありません。日本の研究室のような学生が集まる居室がないことが多いです。

従って、基本的には各自で作業をして進捗を週1程度の頻度で教授に共有する感じでした。

講義に関しては日本とは異なり、質問・発言をする生徒が本当に多いです。座学でも一定の双方向性を感じました。また、日本の大学と一番大きな差を感じたのはグループワークの充実度です。これは特にIDEで顕著でしたが、必須に授業が座学ではなくグループワークであることが多く、学生同士で話し合っ一つの実践的な課題を考える機会が豊富でした。

2.3. 留学終了準備期

寮の退去は学校と提携した寮だったこともあり、留学終了の準備自体はスムーズでした。しかし、この時期はオランダを離れなくなかったため日々悲しい気分で過ごしていた記憶しか無いです。特にヨーロッパの人は夏休みに家族でバカンスに行ったり旅行に行ったりと国内から出るのが人気のため、自分は7月末までいるにも関わらずバカンスに行く友人とは7月頭にお別れをしなくてはならず、帰る1ヶ月前からお別れ会がありました。

2.4. オランダでの生活（寮、街、言語）

幼少期に海外で育ったこともあり、心身共に緊張なく生活が始まりました。1年を通して振

り返っても、ホームシックや海外疲れは特に感じませんでした。

すぐに同じ学生寮に住む友人が4人でき、スタートから運が良かったです。

寮は部屋が広く、とても居心地が良かったです。

街はこれぞオランダというような水路がめぐらされた綺麗な街で、買い物の面でも治安の面でも非常に便利な所でした。（特に私は住んだ場所が良かったです。）

言語はオランダ語ですが、1年経った今でも自己紹介、挨拶、簡単な会話と食材の名前程度しか覚えていません。オランダ人はスーパーの店員だろうと英語がとても上手なのでオランダ語を学ぶ必要はないです。（もちろんオランダ語を喋れると喜ばれるとは思いますが。）

2.5. 就活準備

就活に支障が出ないように、私は卒業を1年伸ばしました。そのため、帰国してから就活を始めています。

2.6. 論文準備

論文執筆活動は、学部論文を英語にして国際誌に出すために翻訳していたぐらいで、特に行っていません。

研究室の活動についても、アウトプットの形が論文ではなくプロトタイプ作成だったため執筆の機会はありませんでした。

3. 総括

留学に行くに当たって、自分が最も大事だったなと思うことは行動力です。そもそも留学に行こうと行動を起こすこと自体が重要なことだと思いますし、渡航後も知り合いはいないし地理もわからないというゼロの状態から何を得るかは行動次第で、例えば友人を作るにも行動を起こして能動的に作りに出向くべきです。

留学を充実させるためにやるべきだと思ったことに関してしっかりと動いていければ振り

返った時に満足する留学になっているものなのだと感じます。

これに関して、先述した内容ですが、金銭面が行動の足枷になるのは留学中の身にはあまりに勿体無いことだと思うので、日本ではできない貴重な経験は留学中にお金を出してでも買うべきだと思います。

1年間海外にいたことで失ったものもありましたが、私はそれ以上に得たものの価値を高く感じます。

これから留学に行かれる方の留学が望んだ体験ができる有意義なものとなることを願っています。